

北海道高等学校教育研究会

第34回大会

期日 平成9年1月8日(水)・9日(木)
主催 北海道高等学校教育研究会
後援 北海道教育委員会
札幌市教育委員会
北海道高等学校長協会

第34回大会を迎えて

北海道高等学校教育研究会
会長 綾井健二

冬の訪れが感じられる季節となりましたが、会員の皆さんにはご健勝にお過ごしのことと存じます。さて、本研究会も活動計画にそって着実に各事業への取り組みを進めてまいりましたが、この度、明年1月に開催される第34回研究大会のご案内を差し上げることになりました。この研究大会は、北海道の高等学校教育の一層の充実を図るために、日々教育に携わっている関係者が一堂に会して、今日的な課題について視野を広め、日ごろの実践や研究の成果を交流し、明日への新たな視点と意欲を高める機会として、毎年、極めて多数の熱心な参加を得て、長年にわたり開催されてきました。

今年度も、研究主題「時代の変化に対応する高等学校教育の創造」のもとに、第1日目の全体集会と第2日目の教科別集会という日程により開催することになっております。時代や社会の変化を踏まえ、そのなかでの人間の在り方、生き方を考えることは、教育を考えるためのもっとも基本的な視点だと思われます。そのための広い視野を得るために、全体集会では、それぞれの分野で大きなお仕事をされている二人の方に講演をお願いしております。

午前の部の講師は、日本の考古学研究を代表する佐原真氏です。佐賀県吉野ヶ里遺跡や青森県三内丸山遺跡の発掘などをはじめ、考古学上の発見が新聞やテレビなどで大きく取り上げられるようになりました。このような発見は人びとの知的好奇心を刺激するばかりではなく、「日本人」や「日本の社会」についてこれまでの常識をくつがえすほどの衝撃を与えていたように思われます。先生は、専門のご研究に加え、比較文化史的観点から日本文化の特質を考え、一般の人びとにもやさしく考古学の成果を理解してもらうため、多方面で活躍されています。時代や人間を考えるうえで、日ごろあまり聞くことの出来ない貴重なお話を伺う機会になると思います。

午後の部の講師は教育臨床心理学の横湯園子氏です。いじめ、登校拒否・不登校など子どもたちをめぐる問題状況が多発していることは今更言うまでもありません。これらの問題が、一部の学校での一部の子どもたちのことという認識は過去のものとなり、今では、すべての学校で、どの子にも起こりうる問題というとらえが不可欠になりました。しかし、このような状況をどのように考え、どのように子どもと接したらよいのかということについての関係者の理解は必ずしも同じではありません。横湯先生は、長年にわたって悩みを持つ親や子どもの教育に携わり、研究を重ねてこられました。先生は、子どもは「時代を見る窓」だと言われます。先生のお話は時代と人間を考える貴重な機会となると思います。

第2日目の教科別集会では、日ごろの指導を一層充実させるために、それぞれのテーマに基づいて、講演や研究発表と協議が予定されています。広い北海道の各地域での研究や実践を互いに交流し、教育内容や教育方法についての理解を深め、新たな視点と意欲を得ることができる絶好の機会となるものと思います。北海道の子どもたちのために、会員の皆様の積極的なご参加を心から期待しております。

第34回 北海道高等学校教育研究大会

○ 研修主題 時代の変化に対応する高等学校教育の創造

第1日目 全体集会 平成9年1月8日(水)

場所 北海道厚生年金会館（札幌市中央区北1条西12丁目）

日程・講師 9:00~10:00 受付

10:00~10:30 開会式

10:30~12:30 講演「大むかしと現代」

国立歴史民俗博物館副館長 佐原 真氏

12:30~13:30 (昼) 食・休憩

13:30~15:30 講演「子どもを見る眼－教育臨床心理の立場から」

北海道大学教育学部教授 横湯 園子氏

演題 「大むかしと現代」

国立歴史民俗博物館副館長 佐原 真氏
(さはら まこと)

(プロフィール)

1932年大阪市に生まれる。大阪外国語大学でドイツ語を学び京都大学大学院で考古学を専攻、博士課程を修了。奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長を経て、1993年より国立歴史民俗博物館副館長。専攻は日本考古学、とくに弥生文化。最近は比較文化史的観点から日本文化の特質を考え、また一般の人びとにやさしい言葉で、文化財の大切さを理解してもらおうと積極的に活動されている。

・主な著書

『日本人の誕生』(小学館ライブラリー1001)、『考古学千夜一夜』(小学館)、『騎馬民族は来なかった』(NHKブックス)、『考古学の散歩道』(岩波新書 田中琢氏と共に著)、『遺跡が語る日本人のくらし』(岩波ジュニア新書)、『斧の文化史』(東京大学出版 UP選書)、『発掘を科学する』(岩波新書 田中琢氏と共に著)、『祭りのかね 銅鐸』(講談社『歴史発掘』)など

演題 「子どもを見る眼－教育臨床心理の立場から」

北海道大学教育学部教授 横湯 園子氏
(よこゆ そのこ)

(プロフィール)

1939年生まれ。臨床心理士。専門は教育臨床心理学・臨床教育学。

日本社会事業大学社会福祉学部社会事業学科卒。国立国府台病院内分校で、16年間にわたって主として登校拒否・神経症の子どもたちの教育に携わる。その後、東京大学教育学部の研究生を経て、千葉県市川市教育センターの専門研究員・指導主事、国立精神・神経センター精神保健研究所客員研究員、女子美術大学芸術学部助教授を経て、現在に至る。

・主な著書

『登校拒否』(あゆみ出版)、『登校拒否・新たなる旅立ち』(新日本出版社)、『アーベル指輪のおまじない』(岩波書店)、『不登校・登校拒否』(岩波書店)、『中学生・高校生の発達と教育』1~3巻(共著 岩波書店)、『生涯発達心理学』(共著 金子書房)、講座『学校』1~7巻(編著 柏書房)、『登校拒否・不登校』1~3巻(編著 労働旬報社)など